



iMAR!

Press Release

佐賀県 伊万里市

〒848 - 8501

佐賀県伊万里市立花町 1355-1

Tel 0955-23-2111 (代表)

Fax 0955-23-6113 (代表)



報道関係者各位

令和5年11月6日

藤山雷太の肖像画を伊万里市重要文化財に指定しました

令和5年11月1日に、二里小学校が所蔵する藤山雷太の肖像画を伊万里市重要文化財に指定しました。これにより伊万里市の指定文化財は41件目、伊万里市重要文化財は30件目になりました。

記

1 文化財の種別及び名称

伊万里市重要文化財

藤山雷太像（熊岡美彦筆）〔ふじやまらいた ぞう（くまおかよしひこ ひつ）〕1面

2 所在地

伊万里市二里町大里乙284番地1 伊万里市立二里小学校

3 指定理由

藤山雷太は、森永太郎、川原茂輔らとともに『伊万里の三偉人』と称されていて、明治、大正、昭和の実業家として日本の産業や経済の発展につくした人物です。肖像画は、その功績に対して勲章や褒章を受章したことを記念して制作されたと考えられています。

熊岡美彦は、大正から昭和にかけての日本洋画画壇における第一人者であり、帝展委員としての活躍や東光会の設立など美術界の向上発展に尽力し、さらに後進の育成に努めるなど、当時の美術界を牽引した人物です。

本作品は、日本の近代洋画を代表する熊岡美彦の手によるもので、実業家として日本の産業や経済の発展につくした伊万里市出身の藤山雷太の功績を讃える絵画として意義深いものであり歴史的な価値が高く、重要な文化財です。

4 概要 別紙のとおり

5 その他

肖像画の披露式を11月24日（金）10時25分から二里小学校の体育館で行います。

問合せ先

市教育委員会 生涯学習課

担当 船井（ふない）

電話 0955-22-1262

いまりで、決まり!

文化財の概要

1 文化財の種別

伊万里市重要文化財（美術工芸品 絵画）

2 文化財の材質及び大きさ

材質 油彩（油絵）カンヴァス（F30号）

大きさ 油彩画 縦907ミリ×横727ミリ×厚21ミリ

3 文化財の制作年代

画面右下に「クマオカ・ヨシヒコ 一 大正15」とサインされており、1926年（大正15）に制作されたと考えられる。

4 文化財に関する概要（由来、伝承等）

（1）作品の来歴

本作品は子孫の方が所有していたが、高齢になり管理が難しくなったことから、大里区に寄附の申し出があり、地元で協議した結果、日本の将来を担う二里町の子供たちに藤山雷太の思いを伝え、高い志を持つ子供たちに成長してもらうことが適切であるとの考えから、2020年（令和2）7月に伊万里市立二里小学校で受納した。

（2）藤山雷太について〔1863年（文久3）～1938年（昭和13）〕

1863年（文久3）有田郷の大庄屋、藤山家の四男として二里町大里で生まれた。伊万里啓蒙舎を経て、慶應義塾卒業後、長崎県会議員となり、その後、実業界入りを志して上京する。1892年（明治25）三井銀行に入社し、以降、業績不振の会社や工場の支援指導を行って再興させ、業績を伸ばすなどの実績を上げていった。1909年（明治42）大日本製糖株式会社取締役社長に就任したのをはじめ、製紙、機械、鉄道、保険、株式、銀行、生命保険、電力、製鉄など38社の取締役や所長、社長、副社長、相談役、理事、会長、監査役、顧問などを歴任し藤山財閥を築く。

1919年（大正8）藍綬褒章を受章。1923年（大正12）紺綬褒章を受章し、さらに貴族院議員に勅選される。1924年（大正13）勲四等瑞宝章を授与され、1926年（大正15）勲三等瑞宝章を授与された。また、二里町大里の神原八幡宮の社殿を建立し、大鳥居や大灯籠も寄進した。さらに二里小学校へ当時の金額で千円もの奨学資金を寄附した。1938年（昭和13）76歳で逝去し正五位を授けられる。

（3）熊岡美彦（作者）について〔1889年（明治22）～1944年（昭和19）〕

1909年（明治42）東京美術学校に入学後、和田英作、藤島武二に師事し、美術学校卒業の翌年の1913年（大正2）文展（文部省美術展覧会）に入選した。1919年（大正8）には

第1回帝展（帝国美術院展覧会）に特選に推され、1925年（大正14）の第6回帝展には「緑衣」を出品して初の帝国美術院賞を受け、1926年（大正15）から帝展委員となったが、同年から1929年（昭和4）にかけて渡欧し帰国後、斎藤与里らとともに東光会を結成した。1931年（昭和6）には熊岡洋画研究所（後の熊岡絵画道場）を設立して後進を育成し、その後も文展の審査員として力強い作風で活躍した。

（4）藤山雷太翁顕彰会について

大里区では郷土出身の偉人である藤山雷太を顕彰するため「藤山雷太翁顕彰会」が設立されている。地区内での藤山雷太に対する顕彰の意識は高く、毎年11月初旬には遺徳を讃えるため区民も参加して神原八幡宮に所在する銅像の前で顕彰会（神事）が執り行われている。

5 指定理由

（1）絵画の美術的価値

作品は椅子にゆったりと座る藤山雷太の肖像画で、体はやや斜めに向きながら顔は正面を向いている。背景色は穏やかな色彩であるが、正面を向いたまなざしは、見るものの精神を覚醒させるほどの自信と威厳に満ちており、強い印象を受ける。

作者は大正、昭和の日本洋画画壇における第一人者ともいえる熊岡美彦である。画家としての技術は文展や帝展の受賞回数でも明らかであり、現在も美術的評価が高い。

また、帝展委員としての活躍や現在も活動を続けている東光会を設立して、真の絵画の創造と一般美術界の向上発展に尽力するとともに、熊岡洋画研究所を開設して後進の育成に努め、大正から昭和にかけての美術界を牽引した人物である。

（2）描かれた人物の歴史的意味

藤山雷太は、森永太一郎、川原茂輔らとともに「伊万里の三偉人」と称され、前述のとおり明治、大正、昭和の実業家として日本の産業や経済の発展につくした人物である。肖像画は、その功績を表す勲章や褒章を受章した際の記念的のものである。

（3）藤山雷太に対する地元の顕彰

藤山雷太は、地元に対しての愛情も深く、大里区にある神原八幡宮の社殿の建立、鳥居や灯籠を寄進している。また、教育の重要性の認識から作業館の建設や理科機器設備の充実などをはかるため二里小学校への寄附を行っている。

地元に対するこれらの功績に感謝するとともに、国内産業や経済に対する功績を後世に伝えるため藤山雷太翁顕彰会が設立されており、現在も毎年11月初旬には顕彰会が執り行われ顕彰に努めている。

今後、肖像画は地元住民のよりどころとして、また子供たちに郷土の偉人について学ぶための象徴的な存在になると考えられる。



藤山雷太像 熊岡美彦筆

肖像画の写真データが必要な方は、以下の方法でご連絡ください。

①下記のメールアドレスに空メールを送ってください。

shougaigakushuu@city.imari.lg.jp （すべて半角）

②生涯学習課の野田もしくは長沼、前田に空メールを送った旨を
下記の電話番号にご連絡ください。

生涯学習課 0955-22-1262 担当 野田・長沼・前田

③確認が取れ次第、JPEG形式の写真データをメールでお送りいたします。